

世界の人とふれあいタイム



「スリランカの話」

平成 25 年 6 月 30 日実施
今回のゲストスピーカー、山崎シルヴァさんはフードコーディネーターや日本の特別支援学校の英語教師(ALT)をされ、そのかわり、NPO「ラマーミトルの会」の理事長として、スリランカの復旧が遅れている小規模の小学校の支援活動や、スリランカ大使館内にある日本スリランカビジネス評議会のメンバとしても活躍されています。

スリランカが内戦さなかの 1990 年に来日され、現在はご主人、義父、大学生の息子さんと高校生の娘さんの 5 人家族です。

スリランカで高校の数学の教師をされていた、シルヴァさんは教育事情から話されました。スリランカでは大学まで授業料はほとんど無料です。小学校は 1 年～5 年、中学は 6 年～10 年、高校は 11 年～12 年ですが、高校卒業のときの年齢は日本と同じです。それぞれの最終学年では進路を決めるためのテストがあり、そのため、1 年ほど前から、子どもたちは塾通いをして必死に勉強するそうです。小中高の各々のテストは、スカラシップテスト、オーディナリーレベルテスト、アドバンスレベルテストです。テストはシンハラ語、タミール語、英語のいずれかの勉強してきた言語で受験します。ほとんどの大学はコロンボにあるため、学生は寮に入ったり、下宿したりすることになるそうです。

生活においては冷蔵庫のある家庭は少なく、生の魚肉や、冷たくした食べ物を食べる習慣はありません。主食はお米で、おかずの意味のカリーと一緒に食べます。スパイスは家庭によって違います。収穫



の多い魚類は、鯉節やドライフィッシュとして保存します。鯉節は日本と違い、砕いてカリーに入れ、ココナツもカリーにかかせない食材です。

スリランカでは大家族で生活することで、年上の人を大事にしたり、尊敬したり、隣近所助け合うことが当たりまえのように暮らしています。子どもた

ちは国の宝物として大事にされます。スリランカはお金が無い国といわれていますが、食べ物に困ることはなく、お米は年に 3 回収穫され、バナナ、パパイヤ、緑がいっぱいある国です。仏教の信仰が厚く、



パワーあふれるシルヴァさん

お坊さんに食べ物を施す習慣(アーンスキビング)があります。国の収入は紅茶とココナツ、ゴム、宝石などの輸出のほか、観光産業も主流です。

外国に出稼ぎの人も多く、そこで得た収入で電化製品を購入します。テレビはほとんどの家庭に普及しています。

シルヴァさんの出身のアンバラゴダやゴールでは、過去に何度も津波があり、不思議に被害はそれほどなかったそうです。ヤシの木が海岸線にも多くあり、津波と一緒に上昇し、高いヤシの木につかまり、助かった人も少なかったそうです。ただ、降りるときは大変だったそうです。

Q&A で、交通事情についての質問に、鉄道はディーゼル車でオフィストレインも運行し、国営のバスやプライベートバスが走行しています。地方では、運転手付きのハイリンカーがよく利用されることを説明されました。小学生からの質問「人気のスポーツは何ですか」に「クリケットです」と返答され、ほかにも多くの質問がありました。

シルヴァさんが補足された話は、結婚する前、ホロスコープ(星占い)はとても重要で、家族同士でそれを見て、「合う、合わない」の判断にします。そのため、離婚は簡単にいかないそうです。それから、ダウリ(持参金)は夫に先立たれても生活に困らないようにと、女性の実家から渡される金品のことですが、夫からとやかく言われないそうです。なお、アンケート結果でも、ユーモアがあり大変良かったとのコメントが多数寄せられました。

(世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉)

…スリランカの子どもの歌(うた) …

「はじめて友だちになるとき」がテーマの子どもの歌：シンハラ語のやさしいメロディをシルヴァさんの透き通る声にリードされ、来場者と合唱しました。

- ♪.. ランティキリシナ ♪.. 歯を全部見せて可愛く笑う
- ♪.. ムアムア パーラ ♪.. 顔と顔を見て笑う
- ♪.. ランヴィ アト アッラガナ アスデヴィーワ ♪.. 近くにきて手をつなぎ、目も笑うと友だちになる

※次回：2013 年 9 月 22 (日)は「ドイツの話」です。ご都合のつく方、ぜひご参加ください。